

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	03	0403	はなまきファミリーサポートセンター事業
総合計画	分野	人づくり			
	政策	3-1	子育て環境の充実		
	施策	1	子育て支援の充実		
目的	有償ボランティアによる児童のあずかり・送迎等を行い、地域の相互援助活動を推進する				
対象	生後3か月から小学6年生までの児童を有する家庭				
意図	子育て家庭の負担の軽減を図る				
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること				
○はなまきファミリーサポートセンター 生後3か月から小学校までの児童のあずかり・送迎等を、有償ボランティアで行う会員制の子育て援助活動支援事業 ・アドバイザーによる相互援助活動の調整、連絡の対応や事業の周知活動 ・主な利用（あずかり）内容は、保育園・幼稚園・学童保育の送迎・帰宅後の預かり、保護者の外出の場合の預かりなど ・あずかり会員の講習会の開催 ・会員相互の交流会の実施					
市民参画の有無 [ 無 ]					
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会	
		後援・協賛		補助・助成	
事業協力・協定		委託			
活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① あずかり会員講習会の実施	時間	計画	24	24	
		実績	24	26	
② 交流会の実施	回	計画	1	1	
		実績	1	1	
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 利用件数 （利用した子どもの延べ数）	件	目標	2,000	2,300	
		実績	2,411	1,659	
② 参考）利用した子どもの実数	人	目標		126	
		実績	126	123	
③		目標			
		実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		○ 目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
利用件数（利用した子どもの延べ数）は、大幅な減少の背景は、頻回に（平日の毎日、さらには1日で朝夕の複数回など）利用していたお子さんが、成長にともなって援助が必要でなくなったことが大幅な延べ件数の減少となった。 延べ件数では、一人のお子さんの利用頻度によって数値が多く変動することから、新たに、成果指標に利用したお子さんの実人数を追加した。この数値をみると、利用した子どもの実人数は横ばいであり、利用したい子育て家庭は決して減少はしていない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	国のファミリー・サポート・センター事業要綱により、市町村に1か所の設置となっており、市町村に対して交付金が交付される。事業内容が、有償ボランティア事業のコーディネート等であることから、市での関与が必要である。
有効性	成果の向上余地	核家族化や早期からの就園、就労形態の多様化により、利用の需要は減らないと思われることから、必要な子育て家庭が利用できるよう一層の事業の周知啓発を行うことで成果の向上に繋がる。
	事業費・人件費の削減余地	事業費の8割近くは人件費である。非常勤2名で対応しており、人員及び予算の削減は難しい。援助活動が安心安全に行われるために開催している研修会においても、できる限り講師料の削減に努めている。
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全域に対応した事業であり、受益機会は均等である。また子育てや子育て支援の重要性から鑑み、誰でもが気軽に利用できる制度とするため、これ以上の費用負担は望ましくない。
	総合評価	…上記評価結果の総括
事業の周知、啓発活動により、登録会員は増加傾向となっていることや、こども1人当たりの利用実人数は、横ばいであることから利用者の需要は減っていない。 おねがい会員は、お願いしたいことが想定される場合は、会員登録をしておくことで、アドバイザーが事前に条件に合う「あずかり会員」を選定し、顔合わせをおこない、いざ、お願いしたい時にスムーズな相互の援助活動につながっている。 また、援助に必要な研修や会員同士の交流会を開催し参加頂くことは、安心、安全な活動につながっている。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	03	0403	はなまきファミリーサポートセンター事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		5,242	5,435		193
財源内訳	国・県	2,906	2,906		
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,336	2,529		193

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部重点施策における目標

子育て支援の充実と子育てしやすい環境づくり

事業開始の背景・経緯

小さい子どもを有する家庭で、保育園への送迎や土・日に預けたいときなどにサポートしてくれる人がほしいという要望から、平成13年7月に国の制度を利用し「はなまきファミリー・サポート・センター」が設置された。その後、平成19年度にこどもセンター開設に伴い併設となった。

事業概要

- はなまきファミリーサポートセンター  
 生後3か月から小学校までの児童のあずかり・送迎等を、有償ボランティアで行う会員制の子育て援助活動支援事業
- ・アドバイザーによる相互援助活動の調整、連絡の対応や事業の周知活動
  - ・主な利用（あずかり）内容は、保育園・幼稚園・学童保育の送迎・帰宅後の預かり、保護者の外出の場合の預かりなど
  - ・あずかり会員の講習会の開催
  - ・会員相互の交流会の実施

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

すべての子育て家庭が、当該事業を知っていて、必要とするときに利用できるよう、事業の周知が必要。  
 また、多様化するニーズに対応できるように「あずかり会員」の確保に、継続して周知、啓発をする必要がある。  
 さらに、安心安全な援助活動を確保していくために、研修会を継続して開催し会員の受講の勧奨が必要である。

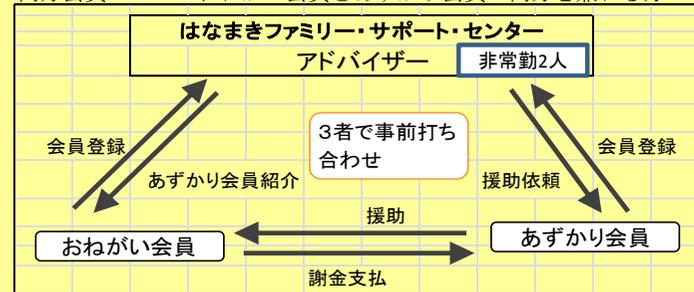
担当部署 部名 教育部 課名 こども課こどもセンター 担当係長 藤田昭子 内線 7-213

(単位：千円)

【事業手法の詳細】…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

○会員制による有償ボランティア子育てサポート事業

- ・おねがい会員・市内在住、もしくは市内にお勤めで生後3か月から小学6年生以下の子どもの保護者の方
- ・あずかり会員・市内在住の方、自宅でお子様をあずかれる方
- ・両方会員・・・おねがい会員とあずかり会員の両方を兼ねる方



会員数

	おねがい会員	あずかり会員	両方会員	合計
H25	721人	150人	64人	935人
H26	715人	155人	63人	933人
H27	727人	161人	57人	945人

利用件数等

	※1. 利用件	※2. 実人数	予約件数	キャンセル数	対応件数
H25	2,559	134	3,152	593	4,425
H26	2,411	126	2,685	274	4,635
H27	1,659	123	1,938	279	5,199

※1. 利用件数=利用した子どもの延べ人数 ※2. 実人数=利用した子どもの実人数

主なあずかり内容

- ・保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり
- ・学童保育の迎え及び帰宅後の預かり
- ・こどもの習い事等の場合の援助
- ・保護者の外出の際の援助
- ・保育所・学校等の休みのときの援助

利用料金等 (1時間当たり：おねがい会員からあずかり会員への支払い金額)

平日基本時間 8:00~19:00	基本時間外	土・日・祝日	病後児保育
500円	600円	600円	700円

事業費

アドバイザー2名（非常勤）経費 4,261千円  
 報償費、229千円、 会報誌・広報誌発行他 472千円  
 役員費、補償保険料等 473千円